

市議会全員協議会（令和5年7月14日（金）） 基本構想素案への意見等とその対応

1 事 項 総合計画2031基本構想素案について

2 発言者数 6人

3 件 数 9件

No.	ページ等	意見等の概要	当日の回答	基本構想素案等への対応
1	素案全体	素案の中に、計画期間中の人口動態や財政予想が見えないので、どう整理しているのか。また、この期間中に、公共施設などの改修が多くある。そういうことが見えないと、市民の方が素案を見たときに、良いのか悪いのか判断しにくいと思うが、この点についてどのように整理しているのか。	人口動態については、具体的な人口目標は設定せずに、人口減少対策の方向性を示すことにした。ただし、前期基本計画においては、基本施策で人口に関する指標を設定することを検討している。 財政予測については、前期基本計画の4年間における見通しを示していきたいと考えている。	鈴鹿市人口ビジョン(令和2年3月改定版)を基礎資料とし、基本構想素案を作成しています。 前期基本計画期間中の財政見通しについては、早期に提示いたします。
2	素案全体	「みんなの目標」が妥当かどうかを判断しようと思うと、基本施策の項目くらいは出さないと市民にも分からない。	基本計画は、「みんなの目標」を踏まえながら、現在作成しているところであり、基本構想素案のパブリックコメントと同時に示すことは難しい。しかしながら、基本構想案を提案する12月議会の前の10月全員協議会で改めて、「みんなの目標」に紐づく基本施策を示す予定である。	当日の回答のとおりです。
3	素案全体	基本構想（各分野別ビジョン）に内容を盛り込みすぎて分かりづらい。見直しをかけるのか。	先を読むことが困難な時代の変化にも柔軟に対応できるように記載している。文言の修正等の見直しは、パブリックコメントを踏まえて検討するが、内容をコンパクトにまとめることについては、現時点で明言できない。	写真やイラストを付けるなど、見せ方にも工夫を凝らすとともに、計画策定後は、動画や概要版を作成するなど、できる限り分かりやすく基本構想の内容を伝えていきたいと考えています。

4	参考資料 1：市政アンケート調査票／6ページ	<p>設問34について、「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」について、何を聴いているのかわからない。移動空間の安全性・利便性と、公共交通の利便性については、同じ項目で聞くべきではなかったと思うが、この聴き方はおかしかったという認識があるのか。</p> <p>意見公募において分かりやすくする考えは。</p>	<p>市政アンケートの項目は、総合計画2023における施策の名称を採用している。御指摘の項目は、施策162番になるが、項目ごとに、コミュニティバスの運行など、具体的な取組を記載しており、このような取組に対する満足度を測定することで、施策ごとの満足度を測る趣旨で調査を実施した。確かに分かりにくい部分があるため、次期総合計画におけるアンケート調査では、「みんなの目標」に具体的な取組を付記し、市民の皆様にとって分かりやすくなるよう調査していきたい。</p> <p>なお、今回のパブリックコメントについては、昨年度実施したアンケート調査であるため、このまま調査結果を参考資料として示す。</p>	当日の回答のとおりです。
5	素案 6ページ	<p>将来都市像について、「最高に住みやすいまち鈴鹿」は、良いフレーズだとは思いますが、主体は何になるか。また、「最高に」というのであれば何に対して比較をしているのか。</p> <p>少なくとも、「最高」とは比較の言葉であると考えます。</p>	<p>主体は市民の皆様がどのように感じられるのかということに観点を置いている。「最高」は、何かと比較してということではなく、住んでいる方が最高に住みやすいと実感していただく、そういう鈴鹿市にしていきたいという思いで、表現している。</p> <p>また、確かに一番という意味で比較をした言葉としても使われるが、人それぞれの感じ方もあるため、幅広い感覚で捉えていただきたいと考えます。</p>	<p>当日の回答のとおり、市民の皆様一人ひとりが「最高」と感じる事ができる、住みやすいまちを将来都市像としています。</p> <p>また、ハッシュタグを付け、効果的にシティプロモーションを展開していくためにも、「最高に住みやすい」というこれまで使われていない言葉の組み合わせを選択しています。</p>

6	素案 14ページ	<p>「良好な都市環境づくり」の項目で、「コンパクトで良好な都市環境の整備を進めます」とあるが、公共施設等の箱モノの縮小・統合などをしていくということしか読み取れないが、どのような観点で目指していくのか。</p> <p>ビジョン4の中で示されないと違和感がある。</p>	<p>20ページ、目指す都市空間の中で、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」として説明している。どちらかというハード整備と関連するものであり、補完し合って理解いただくような構成としている。</p> <p>今後、パブリックコメントを受け、検討していきたい。</p>	<p>ビジョン4の現状と課題に記載のとおり、「公共施設等」には、公共建築物のほか、道路、河川、上下水道施設、公園などを含んでおり、まちづくりの方向性として、これらの適正配置やサービスの維持・向上を図ることで、コンパクトで良好な都市環境の整備を進めることを示していますので、本意見に対しては、基本構想素案への修正は行っておりません。</p>
7	素案 6ページ	<p>全体指標を「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合」とし、目標値を90%以上としているが、総合計画2023と同じであり、市政アンケートの結果(9ページ)を見ると、「ずっと住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計が79.7%となっており、総合計画2023の現状値よりも下がっている。少なくとも何が問題なのか、何が足りなかったのかという総合計画2023の総括をどうするかがあまり見えてこない。この辺りをどのように見ているのか。</p> <p>また、住み続けたいという目標数値が主観的なものであるので、適していないのではないかと考えている。</p>	<p>市政アンケートでは、市外に転出したい理由として、「公共交通が充実していない」というのが最も高いという結果でした。また一方、住み続けたい理由は、「自然が豊かである」が最も高く、このような結果をはじめ、市民の皆様との意見交換会を踏まえて、基本構想素案を策定している。</p> <p>全体指標は、色々な分野を総合的なものとして判断するものとしては、市民の方がどのように感じるのかを把握することが、現時点では最も相応しいものであると考えている。</p>	<p>総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに結果分析し、別途公表しています。</p> <p>なお、全体指標の考え方は、当日の回答とおりです。</p>

8	素案 6ページ	最高に住みやすいという表現は主観的なものである。「最高」という言葉について再度検討いただきたい。	パブリックコメントを受けて検討をしたいが、現時点ではこの将来都市像としたいと考えている。	市民の皆様一人ひとりが「最高」と感じることができる、住みやすいまちを将来都市像としています。 分野別ビジョンに設定した「みんなの目標」が実現した状態が「最高に住みやすいまち」につながると考えています。 また、ハッシュタグを付け、効果的にシティプロモーションを展開していくためにも、「最高に住みやすい」というこれまで使われていない言葉の組み合わせを選択しています。 なお、本意見に対しては、基本構想素案への修正は行っていません。
9	参考資料 4： 素案の主な 策定経緯/ 1ページ	全28の地域づくり協議会と意見交換を行ったとしているが、市内全域を網羅できているのか。 23地区との関係性は。	本市の全ての地域において、地域づくり協議会を設置していただいている。 行政区とは一致しないが、各地域における地域づくり協議会と意見交換を行った。	当日の回答のとおりです。

以上